



モノづくり「革新」

2020年五輪 契機に

日本経済は、久々に明るい局面を迎えている。不安を背景に企業業績は大きく改善し、世界的な原油価格の低下がそれを後押しする。産業界の賃上げ努力によって消費者マインドが上向けば、長く日本を苦しめたデフレ経済からの脱却が実現するだろう。しかし、こうした局面を生み出した政府の財政支出と日銀の金融緩和にいつまでも依存することはできない。産業界は今こそ、日本経済の復興に向けて大転換をしなければならないのではないだろうか。

ひとつのきっかけが、2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックだ。1964年の東京五輪は国力の充実を諸外国に示し、高度経済成長の基盤となった。30年ぶりとなる2020年の東京五輪は、先進的なライフスタイルやモノづくりのあり方を世界に向けて提案し、新たな産業社会を実現する大きなチャンスとなるに違いない。

日刊工業新聞は、今年11月に創刊100周年を迎える。引き続き日本の産業界を応援し、次の100年に向けた扉を開きたい。その第一歩として、2020年に向けた産業界の新たな息吹をこの特集でお知らせする。

にっぽんぶらんど
日本力
未踏に挑む

未来の技術提案



国産主力ロケット「H2A」で打ち上げられた小惑星探査機「はやぶさ2」は2020年末に帰還する予定。さらに同年、新型基幹ロケット「H3」がデビューする見通し(JAXA提供)



トヨタ自動車が開発中の自動運転技術。国は2020年に緊急時のみ運転者に対応する準自動走行システムを都内で実践する計画で、車各社が開発を進めている



東京都港区に建設された大規模複合施設「虎ノ門ヒルズ」。ここからつながる「新虎通り」は五輪会場につながるメインストリートになる予定

ソフトバンクのパーソナルロボット「ペッパー」は人間と柔軟なコミュニケーションを行う。政府は2020年を一つの目標に「ロボット革命」の実現に取り組んでいる

INDEX

- 2 スペシャルインタビュー
- 3 スペシャル対談
- 5 防災
- 6 スマートコミュニティ
- 9 航空・宇宙
- 11 工作機械・工作機器
- 12 鍛圧機械・射出成形機
- 13 ロボット
- 14 重電
- 15 情報通信技術
- 16 自動車
- 17 19 エレクトロニクス
- 21 建設機械
- 22 環境・エネルギー
- 23 建設・プラント
- 24 CSR
- 25 不動産・住宅・建材
- 26 素材
- 27 医療・医薬・ヘルスケア
- 28 流通サービス・日用品
- 29 金融・保険

三井物産株式会社 www.mitsui.com/jp



世界の未来を、世界とつくる。

三井物産。それは、人。

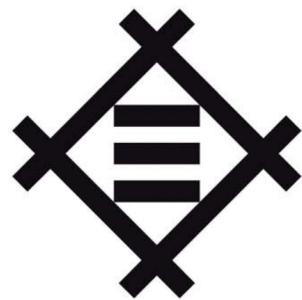
人の意志。人の挑戦。人の創造。

私たちは、一人ひとりが世界に新たな価値を生みだします。

世界中の情報を、発想を、技術を、資源を、国をつなぎ、あらゆるビジネスを革新します。

これからの時代に、新しい豊かさを生み、

大切な地球とそこに住む人びとの夢あふれる未来をつくっていきます。



MITSUI & CO.